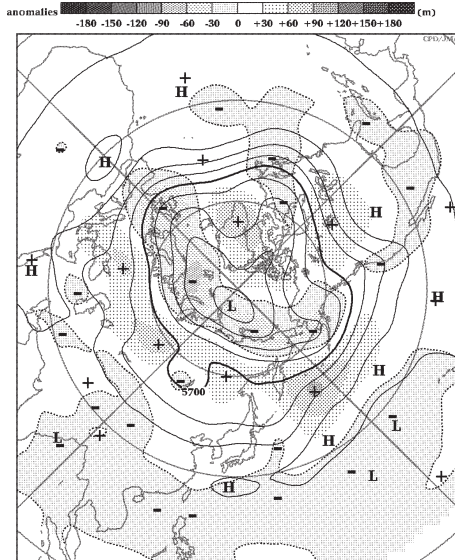


## 2012年7月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa 高度はユーラシア大陸北部と北米中央部で明瞭な正偏差だった。グリーンランドでブロッキング高気圧が形成された。ヨーロッパ北西部は明瞭なトラフとなった。ユーラシア大陸では偏西風の分流傾向が続き、寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。アジアジェットは平年と比べて南偏し、北米のジェット気流は北偏した。太平洋の亜熱帯高気圧は平年より強かった。北半球中・高緯度対流圏の気温は高温偏差だった。

熱帯の対流活動は、南シナ海からフィリピンの東海上にかけてと西部太平洋赤道域で平年より活発、太平洋中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相はインド洋（上旬）から太平洋（下旬）にかけて東進した。対流圏下層では、太平洋高気圧が平年より強く、月末には日本付近への張り出しが明瞭だった。対流圏下層の太平洋赤道域では西部から中部で東風偏差、東部で西風偏差だった。対流圏上層ではチベット高気圧は東側で平年より強かった。南方振動指数は0.0だった。



2012年7月の北半球月平均500hPa 高度および  
 年偏差  
 等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は  
 1981～2010年のデータから作成。

### 世界の天候

2012年7月の世界の月平均気温偏差は+0.23°Cで、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。7月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.65°C/100年である。

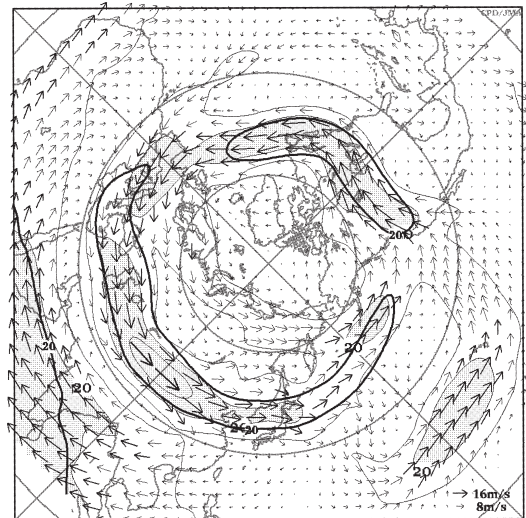
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国北部及びその周辺では、異常多雨となった。
- アラビア半島から地中海周辺の広い範囲で異常高温となった。
- 米国では東部から中部にかけて異常高温、中部で異常少雨となった。7月の米国本土の平均気温は、1895年以降で最も高かった（米国海洋大気庁）。

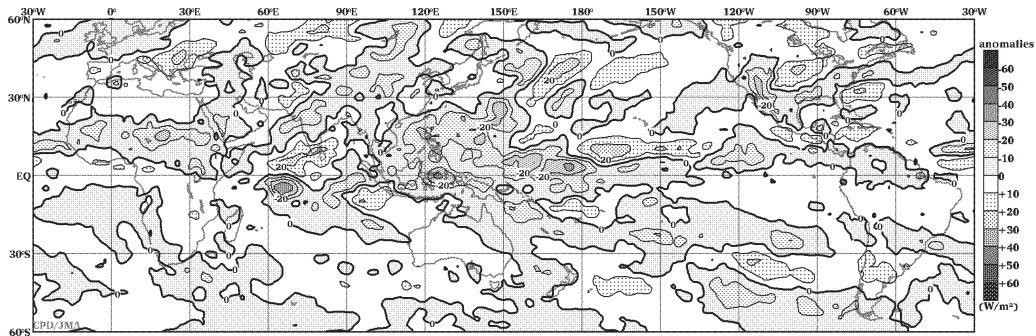
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

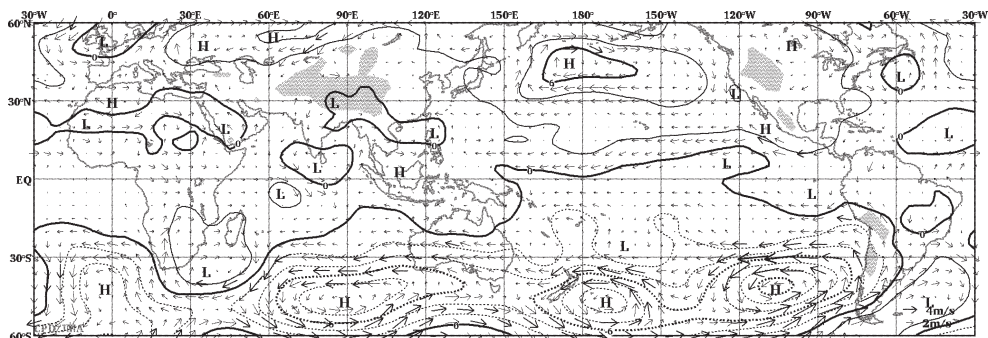
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



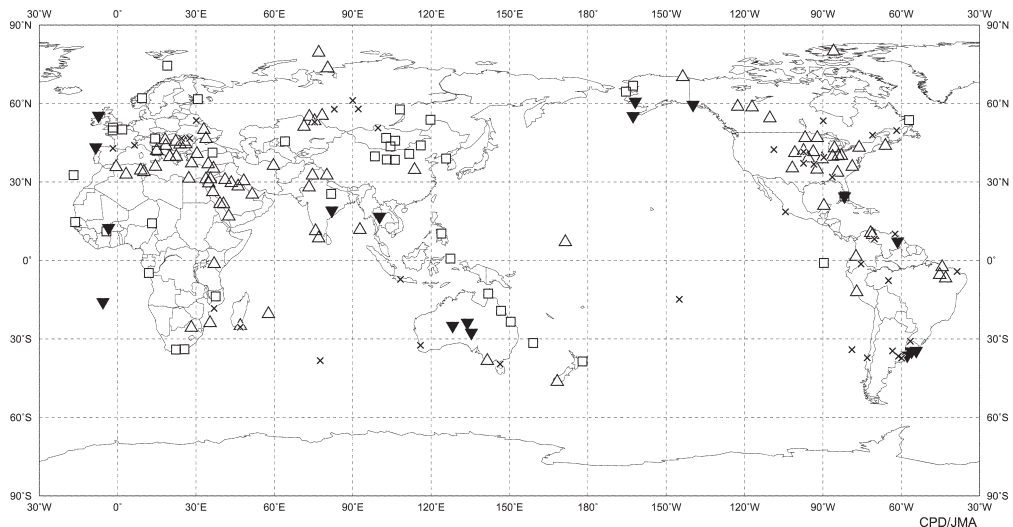
2012年7月の北半球月平均200hPa 風速および風  
 ベクトル  
 等値線間隔は20m/s。陰影部は20m/s以上。太実  
 線で囲まれた領域は平年の20m/s以上の領域を  
 示す。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2012年7月の月平均外向き長波放射量平年偏差  
 等値線間隔は $10\text{W/m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年7月の月平均850hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。